

優しさを感じる基準に関する調査

2019年7月10日

A15CA046 A16CB051 A16CB067

A17CB015 A17CB060 A17CB114

問題・目的

日常生活を送る上で、他人との関わりは必要不可欠である。新たな人間関係を築くため、今ある関係を良好に保つために、私たちはたびたび「優しさ」を意識する。「優しさ」の基準は人それぞれであるはずなのに、人には優しくするべきだと教えられ、できなかった時には罪悪感を覚える。しかし私たちは、対象や状況によって、その「優しさ」を発揮するかどうかの判断を迫られているように感じる。

菱田(2004)は、優しさについて女性は自分の厳しい体験によって他人に対する「やさしさ」を身につける傾向が推測されるとある。

そこで、本研究では、ケースメソッドⅢを受講している女子大生を対象にインタビュー形式で質問し、優しさとは何か、それは相手によって変化し得るのかを被検査者の体験を元に調査することを目的とする。

方法

日時：2019年5月8日10時50分～12時20分、2019年5月15日10時50分～12時20分

場所：椋山女学園大学日進キャンパス 5-210 教室

研究協力者：ケースメソッドⅢを受講している学生10名{(A～J) 平均年齢21.8歳}

調査内容：下記の質問内容をもとに、半構造化面接を行い、優しさに関する質問を7つ行った。

1. 人からされて優しさを感じたことは何か
2. 何が優しいと感じたか
3. 自分が考える優しさとは何か
4. 人に優しくしたいと思うか
5. それは何故か
6. 誰に対しても優しくしたいと思うか
7. それは何故か

結 果

初めに、質問1「人にされてやさしさを感じたことは何か」に対する回答は表1のとおりである。この結果から、大カテゴリーとして、金銭が関係しているものと関係していないものの2種類を抽出した。その結果、優しさを感じる場面に金銭が関係している回答が5個であったのに対し、関係していないとの回答が17個で多数であった。また、金銭が関係している回答から、小カテゴリーとして、友人・家族からされて優しさを感じた場合の1種類を抽出した。その結果、友人・家族間で発生する優しさは5個であった。金銭が関係しない回答については、中カテゴリーとして、友人・家族間に発生する優しさ、友人のみに発生する優しさ、知らない人・家族・友人間に発生する優しさの3種類を抽出した。その結果、友人・家族間に発生する優しさが10個で一番多く、友人のみに発生する優しさが3個で知らない人・家族・友人間に発生する優しさが4個であった。さらに、中カテゴリーを友人・家族の小カテゴリーとして、優しさの種類が心配である場合と心配でない場合の2種類を抽出したところ、「体調が悪い時に気遣ってくれた」や「相談事を聞いてくれた」といった自身に対して心配の気持ちを示してくれた時に優しさを感じるといった、心配してくれたことに優しさを感じた回答が7個と一番多かった。ここから、優しさを感じる場面は、金銭の有無に関わらず、むしろ金銭が関係していない場面で優しさを感じる人が多数であることが分かった。また、優しさを感じる場面で最も多いのは、友人や家族が自身を心配してくれた時だと考えられた。

表1 人からされて優しさを感じたことは何か

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	研究協力者の語り		
お金		友人・家族	友達にお土産を買ってきてもらったとき(H) 誕生日に手作りのプレゼントくれた(J) なんでもないときに、ちょっとしたプレゼントたお菓子くれること(B) おごってくれたとき(I) 物をくれたとき(I)		
お金じゃない	友人・家族	心配	頼んでないのに気遣ってくれたこと(H) 体調が悪かったときに心配してくれたこと(F) 体調を気遣ってくれたこと(B) 自分の相談事を真剣に聞いてくれたこと(A) 気分をわかってくれること(A) 自分の体調や機嫌を気にかけてくれる(O) 寝込んでいた時に理由を聞かないでくれたこと(E)		
			心配でない	誕生日を覚えていてくれた(F) お水をさりげなく持ってきてくれた(J) 洗濯物を私にも重ねてくれる(O)	
				家族のみ	家族のご飯を作ってもらったとき(H) いつも母が自分のことより、私を優先して気にかけてくれる(O)
					友人のみ
				知らない人・家族・友人	

次に、質問2「何が優しいと感じたか」に対する回答は表2のとおりである。この結果から、大カテゴリーとして、相手が限定されない場合と自分に限定する場合の2種類を抽出した。その結果、優しくする相手が限定されないものに関する回答が7個、優しくする相手が自分に限定される回答が7個と半分に分かれる結果となった。また、優しくする相手が限定されないものから小カテゴリーとして、親切心とその人の考え方の2種類を抽出した。その結果、親切心を優しいと感じる人が6個で一番多かった。自分に対する優しさについては、小カテゴリーとして、好意による優しさと好意と行動による優しさの2種類を抽出し、行動を伴わない好意を優しいと感じる人が4個で、行動が伴う好意を優しいと思う人よりもわずかに多かった。

表2.何が優しいと感じたか

大カテゴリー	小カテゴリー	研究協力者の語り
相手が限定されない	親切心	人の気持ちを考えること(D)
		空気を読んでくれること(E)
		人を見て気を遣える(C)
		親切心を感じる(G)
		大切なことを教えてくれた(J)
		相手が気付いてくれた(J)
	その人の考え方	なんでも平等に考えられる(C)
自分に対する優しさ	好意	自分のことを相手が考えてくれていること(B)
		私自身に関心を持ってくれたこと(F)
		言いたいことは言う性格と分かったうえで、そのうち話すとわかってくれること(E)
		そこに好意があったこと(H)
	好意と行動	自分を思ってやってくれたこと(H)
		お土産をくれるとか、遠いところのお土産をくれるとき、自分のことを考えてくれること(I)
		自分のために時間を割いてくれる(A)

次に、質問3「自分が考える優しさとは何か」に対する回答を、大カテゴリーとして、行動と思考の2種類に分けた。また、小カテゴリーとして、思考の中でも関心・気遣い・その他に分け、表を作成した(表3)。

行動に関する回答が3個、思考に関する回答が10個と、思考に関する回答が多く見られた。また、思考に関する回答の中でも、気遣いが5個、関心が3個、その他が2個と気遣いが優しさであるとの回答が最も多く見られた。

表3.自分が考える優しさとは何か

大カテゴリー	小カテゴリー	研究協力者の語り	
行動		その人を助ける行為(H)	
		その人が喜ぶと思っしてすること(H)	
		人のために何かをしてあげる(I)	
思考	関心	相手のことを考えること(E)	
		人の気持ちを考えること(D)	
		相手に関心を持つこと(F)	
	気遣い	思いやりの気持ち(G)	
		人を気遣える(C)	
		相手のことを気遣うこと(B)	
		自然と相手に気を使える(A)	
		その人を思っして気遣いする(H)	
		その他	自我を出しすぎないこと(E)
			自分の価値観を押し付けない(J)

次に、質問5「それは何故か」に対する回答を、自分本位な考えと他者本位な考えの2種類を大カテゴリーとし、表を作成した(表4)。また、自分本位の分類では、自分にデメリットを与えたくない・見返りを求める・その他の3種類に分類し、他者本位の分類では、人にメリットを与えたくない・デメリットを与えたくないの2種類に分類し、それらを小カテゴリーとした。

自分本位な回答が9個、他者本位な回答は6個と、自分本位な回答が多く見られた。また、他者本位な回答の中でも、人にメリットを与えたい・人にメリットを与えたくないが共に3個と、どちらも同じ回答数であった。一方、他者本位では、自分にデメリットを与えたくない・見返りを求めるが共に4個と、どちらも同じ回答数であった。

表4.(Q5)人に優しくしたいと思うかそれはなぜか

大カテゴリー	小カテゴリー	研究協力者の語り
他者本位	人にメリットを与えたい	自分が優しくされると嬉しいから人に優しくする(B)
		自分も優しくしたい(H)
	人にデメリットを与えたくない	自分がされたら嬉しいから優しくしたい(D)
		人に嫌な気持ちになってほしくない(H)
自分本位	見返り	人に嫌な思いを与えたくない(I)
		優しくされなかったと気づくかもしれないから人にそういう気持ちにさせたくない(O)
		自分が優しくされたいから(O)
		人に優しくすると自分にも返ってくる(H)
	自分にデメリットを与えたくない	自分にも優しくしてもらえる(H)
		自分も優しくしてもらって、優しくしたらそれがまた自分に返ってくると思うから(G)
		優しくないと友達ができない(F)
		嫌われたくないから(A)
その他	人に良く思われたいから(E)	
	優しくないと思われたくない(E)	
		心に余裕があるから(J)

質問 6「誰に対しても優しくしたいと思うか」に対して、すべての人が誰に対しても優しくしたいと回答した。この結果から、カテゴリーとして、優しくしたいけれど嫌な人には優しくしたくないというマイナスの限定と、仲がいい人には特別優しくしたいというプラスの限定の 2 種類を抽出した(表 5)。その結果、マイナスの限定が 5 個、プラスの限定が 2 個であり、マイナスの限定の回答が多数であった。

表5.誰に対しても優しくしたいと思うか

カテゴリー	研究協力者の語り
マイナスの限定	知らない他人や自分に害のない人にはしたい(D)
	自分と関係のない人、自分を知っている人にはもちろん優しくしたいが、自分に優しくない人には優しくしたくない(C)
	できれば誰に対しても優しくしたいけど、嫌な人にはしたくない(D)
	過去に優しくしてくれた人には優しくしたいけど、嫌な思いがある人にはしたいけどできない(B)
	この人を嫌だなと思ったらしてあげたい(D)
プラスの限定	誰に対してもだが、特に仲のいい人に対しては(G)
	普段から仲良くしているから(G)

最後に、質問 6 に対しての質問 7「それは何故か」の回答をカテゴリーとして、見返り、その他の 2 種類を抽出した(表 6)。その結果、見返りに関する回答が 5 個、その他の回答が 2 個であり、見返りの回答が多数であった。

表6.それはどうしてですか

カテゴリー	研究協力者の語り
見返り	接し方で人の反応も違うと思うから(E)
	したい(仲が良くななくても)新しく関係が築ける(J)
	いつか自分に返ってくると思うから(A)
	自分のため(自分が優しくできてると思うとうれしい) (J)
	自分の嫌いな人でも自分が優しくいることで気持ちが変わるかもしれないから(H)
その他	理由はわからない(F)
	知らないからこそ優しくしたい(D)

考 察

本研究の結果から、人からされて優しさを感じたことは何かという質問に対して、金銭が絡んでいない思いやりや、気遣いのある出来事を優しさと感じやすく、その中でも自分に対する好意や、それに伴った行動に優しさを感じる人が多いと考えられる。また、自分が考える優しさについては、行動や行為ではなく、気遣いや思いやりなど思考的なものを優しさとする人が多い。

以上の考察から、人は金銭が絡んでいない思いやりや、気遣いのある出来事に優しさを感じやすい。その理由は、自分に対する好意や、自分に伴った行為に優しさを感じる人が多いためであると考えられる。また、優しさとは、行動や行為ではなく、気遣いや思いやりなどの思考的なものと感じている人が多いと考えられる。さらに、人が他者に優しくしたいと思う理由は、見返りや自身にデメリットを与えたくないという回答が多いことから、他者のためよりも、自身のためであることが多いと考えられる。

また、多くの人が、他者に対して優しくしたいと思っている。しかし、知らない人や苦手な人に対しては、優しくするのは困難であると感じている人が多数であると考えられる。そして、その理由も「いつか自分に返ってくると思うから」、「自分のため」といった回答があるように、自身のために人に優しくしたいと思う人が多数であると考えられる。

このように、人は優しさを思いやりや気遣いと考え、また、他者に対して優しくする理由は見返りを求める自分本位な気持ちが強いと考えられる。

今回の調査では、検査者の調査不十分であったため、回答の解釈に検査者の主観と解釈が混ざってしまうことが多くあった。今後の調査では、予備調査を実施し、精査する必要があると考えられる。

参考文献・引用文献

菱田陽子. 現代青年の自己受容に関する分析(2) : やさしさを中心とした性差の検討. 北陸学院短期大学紀要. 2004. 35. 195-211